

西播磨認知症ケア実践研修

特定非営利活動法人 播磨オレンジパートナー
〒679-4165 兵庫県たつの市龍野町本町 47 番地

助成事業の概要

1. 実施目的

本事業は、都市部を中心に行われる認知症ケアの研修に参加する機会の少ない、西播磨在住・在勤で、経験の浅い介護職員に研修を提供し、受講者が「認知症」を深く理解し、認知症を有する利用者への実践的なケアの方法を学び、介護現場の認知症ケアの質並びに職業意識を向上させていくことを目的とする。

2. 実施時期と内容

○11月5日（日）

・「認知症」の薬とその作用

講師：小倉佑樹氏（うたごえ薬局）

・認知症の方への音楽療法

講師：細江弥生氏（NPO法人播磨オレンジパートナー理事）

○12月3日（日）

・生活を共につくる訪問介護員の認知症ケア

講師：藤原るか氏（共に介護を学びあい・励ましあいネットワーク主宰）

・認知症のある方への「生活のし易さ」を中心に考えるアプローチ

講師：田中義行氏（株式会社大起エンゼルヘルプ）

○1月7日（日）

・食べない方への支援法 ～認知症対象者の気持ちに立つことで見える糸口～

講師：牧田日和氏（愛知学院大学）

○2月～3月 報告書作成・参加者および介護事業所等へ送付

事業の成果

(1)「認知症」の理解

経験の浅い職員は、初任者基礎研修など短期間に基礎的な知識を学んだ後に、デイサービスや特別養護老人ホームなどの介護事業所に就職し、認知症を有する利用者のケアの実践を行うようになるが、認知症の程度や個々の状態が異なる利用者に対して、知識が不十分であったり、知識をうまく実践に生かすことができなかつたりする。また人手不足の多忙な現場ではOJT もままならない状況である。

小倉佑樹氏の講義では、認知症の薬の種類やその作用と副作用について学び、利用者の日常の様子が認知症によるものであるのか、薬の作用・副作用なのかを判断する重要性を学ぶことができた。

(2)「認知症ケア」の理解

1. 細江弥生氏の講義では、施設などで行われている音楽レクリエーションに、音楽療法の視点を加えることで、身体機能の向上につながることを学ぶことができた。また、音楽療法士ではなくてもできる音楽療法の手法などを実際に体験した。

2. 藤原るか氏の講義では、時間が制約されている訪問介護の中で、いかに利用者に寄り添い、個別のケアを行うか、その工夫や心得を学ぶことができた。

3. 田中義行氏の講義では、不適切なケアがどのように利用者の状態を悪くするか、また個々の状態にあったケアによって状態が改善していく様子を動画で学ぶことができた。

4. 田中日和氏の講義では、認知症が進行して食事がしにくくなった利用者のケアについて、アセスメントの方法や支援の方法などを学ぶことができた。先生が実践している食事の支援の貴重な動画なども見せていただくことができた。

（3）自己研鑽への意欲向上

受講者が多くの学びを得、また職場で実践してみたいという感想を得ることができた。

次回の研修について連絡の欲しい方にお知らせを送りたいと伝えると、全員が住所を残してください、自己研鑽への意欲が高まったと思われる。

成果の広報、公表

各講座については、その都度、法人 Facebook ページでその様子を写真とともに伝えした。

また、成果物として「報告書」を作成した。

報告書には、各講師の当日の配布資料の中から、最も重要な部分と思われるものを抜粋し、講師の写真とともに掲載するとともに、受講者の各講座に対する感想も掲載し、参加されなかった方々にも講座の内容を知っていただき、参考にさせていただけるよう工夫した。

報告書は 400 部作成し、今回の受講生と講師に郵送するとともに、西播磨圏域の介護関係機関、介護事業所、そして過去の受講生、講師などにお送りさせていただいた。

今後の展開

昨年度に続いて、第2回目の認知症ケア実践研修を開催することができたが、今後も続けて、経験の浅い職員を対象にした本研修を続けていきたいと考えている。

まだあまり周知されておらず、受講生の数も少

ないが、著名な講師の講義が神戸や大阪まで行かずに受講できることは、西播磨圏域の介護職員にとっては重要なので、もっと介護事業所にアピールしていきたいと思う。

介護事業所で講師を招いたり、新人職員に研修を開いたりすることは難しいこともあるので、本研修が事業所の研修として認められれば、受講する職員にとってモチベーションがあがるものになると思われる。

第3回目の認知症ケア実践研修では、認知症の当事者の方とその支援者を講師に招き、当事者に寄り添ったケアとは何かを、共に考えられるような研修にしたいと思っている。